

令和4年度 大和高田市立高田商業高等学校 学校評価 総括表									
学 校 運 営 計 画 （ 4 月 ）								評価（3月）	
学 校 経 営 方 針		○基礎・基本的な学力・生活習慣を身につけさせると共に、健康に留意し、人権を尊重できる生徒を育てる。 ○自立できる社会人としての能力をビジネス教育を通じて涵養する。						B	
年 度 重 点 目 標		具体的目標							
・学習指導の充実 ・生徒指導の充実 ・人権教育の充実 ・進路指導の充実 ・資格取得指導の推進 ・部活動の活性化 ・学校、家庭、地域の連携と協働 ・学校の安全		・基礎・基本の学力の定着を図るとともに、高い志を持ち、目標に向かって自ら学び、考え、判断する態度を育成する。 ・基本的生活習慣の確立を図り、社会的マナーと規律を身につけた生徒を育てる。 ・適正なSNSの利用など、人権意識の向上を図る。 ・情報収集に努め、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じた進路指導を組織的かつ計画的に推進する。 ・上級資格取得に向け、計画的な取組を行う。 ・「部活動に係る活動方針」に則り、部活動の充実を図ることで、知・徳・体のバランスの取れた人間力を育成する。 ・地域連携プロジェクトの組織化を図り、開かれた学校として、情報発信を積極的に行い、地域との連携を一層充実させる。 ・施設・設備の安全管理や通学路の安全点検を実施し、事故防止に万全を期すとともに、危機管理意識を高める。							
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策			評価（3月）		次 年 度 の 主 な 課 題		
第1学年	基本的生活習慣の確立し、忍耐力を身につけて、意欲的な学校生活を送らせる。	積極的な部活動の参加、また規則正しい生活を送らせ、年間の皆出席者が75%以上、欠席総数が120日以下を目標とし、努力させる。				B	規則正しい生活習慣の確立を目指す。また、正しい電子機器の使い方を理解させる。 検定への取り組み並びに、計画性をしっかりとめさせる。		
		ホームルーム等で人間関係の構築に向けた取り組みを行い、ルールやマナーを守れる集団の育成を目指す。			A				
		BYODの導入に伴い、正しい利用と有効的な活用ができるように指導する。			B				
	基礎を大切にし、学習の習慣を身につけて、自己の進路につなげられるようにする。	落ち着きをもって学習できる環境を作り、日頃から学習する意欲と習慣を身につけさせる。			A	A			
		検定取得への意欲を高め、主体的、計画的に学習に取り組ませる。			A				
		早い段階で自己の進路を意識させ、自立心をもって目標に向けて学習に取り組めるように指導する。			B				
第2学年	中堅学年として、自覚を持たせ、基本的生活習慣や規範意識を身につけさせ充実した学校生活を送れるよう指導する。	規則正しい生活習慣を身につけさせ、年間の皆出席者が75%以上、欠席総数が130日以下を目標にする。				B	最高学年として自覚を持たせ、後輩の見本となるよう責任ある行動を心がけさせる。 自己の進路実現が行えるように、高い目的意識を持たせ、積極的に取り組めるように促す。		
		充実した学校生活を送るために、学校行事やHR活動に積極的に取り組ませ、計画的に進むようにリーダーシップの育成を図る。			B				
	修学旅行を成功させる。	安全に実施できるように計画を立て、生徒が中心となって企画し、感染予防を心がけ充実した修学旅行にする。			A				
	進路実現を意識し、自ら学ぶ姿勢を身につけさせ、各種上級検定取得を目標に日々の授業に取り組ませる。	日商簿記検定2級やステップ英検2級、ITパスポートなどの上級検定を取得させるために各種検定科目の補習や個別指導等を学年としてサポートする。			B	B			

	組ませる。	進路目標を明確に設定させ、それに向けて自分自身で取り組むべき課題を見つけさせ実践させる。	B			学校行事においてもリーダーシップを発揮し思い出に残る行事になるように取り組ませる。
		自主的に学習に取り組む姿勢を養う。	C			
第3学年	進路実現に向けて自主的に取り組ませる。	担任・副担任・進路指導部・学年が連携して、生徒の進路実現の為に尽力していく。	C	C		2年終了時において、上級英語検定を取得している生徒が少なく、商業科の検定取得も少なかったので選択肢が広げられなかった。
		次のステージで活躍できるよう、言われたことだけに反応して行動するのではなく、自ら考え、自ら行動し、自らで問題解決できるよう指導する。	B			面接・小論文への取組が遅く、自主性や真剣味が足りなかった。
	最高学年として自覚ある行動がとれるよう、学校行事や学校生活での機会を利用し指導していく。	規則正しい生活をし、次のステージも意識させ、年間欠席総数80日以下、皆出席85%以上、3年間皆出席120名以上を目指す。	C	B	B	退学者も多く、長期の欠席者も多かった。SCの積極的活用が必要。
		進路決定後も目標を持ち、また周囲の進路決定状況にも気を配りながら、卒業まで高田商業で学んできた事を継続して、節度ある態度で生活するよう指導する。また、3年間で関わったすべての方への感謝の気持ちを感じてもらえるようにしていく。	A			特別指導になる生徒も少なく、真面目に学校生活を送ってくれた。3学期の、進路には直結しにくい検定にも最後まで懸命に取り組み数名の合格者も出た。
		成人年齢の引き下げに関する取り組みを行い、今まで以上に自覚と責任を感じさせるよう指導する。	B			
教務	特色ある学校を目指し、教科学習の学力充実と指導力の向上に努める。	BYOD導入に対応した授業を工夫し、ICT機器を活用した公開授業や教員の研修を実施する。	B	B	B	ロイロノートの活用などBYODに対応した授業を工夫し、教員の研修を実施する。
		家庭学習の習慣をつけるための取組を行う。	B			家庭学習の習慣をつけるための取組を行う。
		新しいホームページの充実に取り組む。	A			観点別評価が指導と評価の一体化となるように取り組む。
	教育活動の円滑な推進に取り組む。	新学習指導要領に基づき、観点別評価に取り組む。	A	B		校務支援システムを利用し、事務処理負担が軽減されるよう取り組む。
		BYOD導入に係わる個人所有の情報機器の取扱いルールを確立する。	C			BYODの初期設定や問題発生に対応できる教員が増えるように研修する。

生徒指導	規範意識の醸成を目指し、規律ある高校生活を確立させる。	コロナ禍の中、感染予防対策を徹底し体調管理に努める。欠席総数330以下、年間皆出席78%、校門遅刻60以下の達成を目指す。		B	B	コロナに対する基準も見直しが行われるため、欠席に対する意識を高めさせるとともに、引き続き感染予防対策を徹底し体調管理に努める。
		登下校時の通学マナーの向上に努め、事故0を目指す。	C			登下校時の通学マナーの向上に努める。
		規範意識の向上に努めながら、担任と連携して保護者対応を行う。問題行動件数年間15以下、特にSNSに関する問題行動の減少に取り組む。	B			SNSに関する問題行動の減少に努めるとともに規範意識の向上を目指す。
	特別活動の充実を図る。	LHRの充実を図る。成人年齢の引き下げについても意識させる	B	B		LHRの充実を図る。
		部活動に対して高い意識を持たせ、高い目標を持って活動する生徒を育成し、全国大会、近畿大会出場、入賞を目指して取り組む。	A			高い目標を持たせ取り組ませる。
	道徳教育の充実を図る。	いじめをなくし、豊かな人間性を目指すとともに思いやりのある生徒を育成する。	C	C		いじめをなくし、思いやりのある生徒を育成する。
	ボランティアの充実を図る。	コロナ禍においてボランティア活動への参加が難しい状況であり、ボランティア精神を養わせる取り組みを行う。	B	B		ボランティア活動への参加を呼び掛けること、ボランティア精神を養わせる取り組みを行う。。
	安全教育の推進を図る。	防災・防犯意識を高めさせ、危機管理意識の醸成に努めさせる。	B	B		防災・防犯意識を高めさせ、危機管理意識の醸成に努めさせる。
	校内や通学路の美化に努める。	清掃活動を徹底させ、常にきれいな環境で生活できるように校内美化に努める。	B	B		ゴミ処理の徹底を行い、校内美化に努める。 校内の緑化を充実させる。
		四季の花を通じて常に季節を感じられる学校づくりを目指し、校内の緑化を充実させる。	B			

進路指導	生徒の実態と希望に応じた進路指導の実現を目指す。	引き続き4年制大学進学希望者の内、国公立大学及び難関私立大学の合格者を50名、中堅私立大学以上の合格率を75%以上を目指す。	C	B	B	進学に関しては今まで通りは通用しないという認識を持ち、早期から働き掛け、目標をしっかりと持って受験に臨む意識の醸成に努める。
		希望する職種の確保、優良就職先の継続、卒業生の離職の減少のため、積極的に企業訪問を行い早期に就職決定率100%を目指す。	A			就職に関しては、来年度も同じように努力を続け、引き続き早期での就職決定率100%を目指す。
	積極的な進路情報の提供。	全職員の共通理解と組織的かつ計画的な取組を目指し、情報を共有し、組織として小論文や面接等の指導に取り組む。	B	B		情報収集と共有に関して新しい手法を検討するとともに、小論文指導の新しいシステムの検討に入る。
		今後の進路指導の進むべき方向を見定め、今後5年及び10年の指針の礎を築く。	B			経験や個人の積み重ねだけではなく、数値に立脚した受験指導の手法を積極的に学ぶ。
		入試説明会の参加および個々の大学訪問を推進し、新テストに向けての情報を収集してデータの共有できる体制を構築する。	B			説明会や大学訪問だけでなく、卒業生も使って情報を集め、毎年更新して行ける書式を作る。
	キャリア教育の推進。	早期から進路に対する関心や意識を持たせ、様々な活動を通して、生徒一人一人に応じた指導を行い、しっかりとした勤労観や職業観を養う。	B	B		進路意識同様に、検定の取得も自らのキャリアに大きく関わってすることも認識させ、低学年から計画的に各種検定を取る意欲を出せるようにする。
		生徒それぞれと綿密に関わり、生徒が人生を模索する上での適切なアドバイスができるよう教員が研鑽に励む。	B			機会を設けて社会との接点を教員が持ち、生徒各自が主体的に自らのキャリアに取り組めるようにする。
文化厚生	図書館の利用者や貸出冊数の増加、読書習慣を身につけ図書館活動を充実させる。	図書委員を中心に図書館活動を活性化する。また、図書館利用促進の広報活動等も行い、図書貸出冊数年間150冊以上を目標にする。自習室としての利用も奨励する。	C	C	B	図書館の活動を計画的に行い、図書館活動や自習室としての活動を果たすように計画し、利用者数の統計をとる。図書貸出冊数を100冊以上を目標に読書の習慣づけをおし進める。
	文化部活動を活発化させる。	部活動は新入生の部員確保を積極的に行う。また各種競技大会の近畿・全国大会の出場選手20名以上を目標とする。活動を活発化し、更に上位入賞を目指す。	A	A		県内予選の上位入賞、近畿・全国大会の出場を目指し、毎日の活動の活性化を目指す。また、活動の紹介を積極的に行い、また部員の確保に努力する。
	文化的行事を充実させ、意義のあるものとする。	舞台発表のレベルを上げ向上を図り、見応えのある舞台を目標とする。模擬店の販売品目・方法を精選する。	C	B		舞台出演を早い時期から取り組み、クオリティが高く節度のある舞台出演を目指す。またクラス全体の協力や協調性を養う。
		文化委員に自覚と役割を理解させ、文化委員を中心に準備・企画・運営を計画的に行う。また各クラスの創意工夫を促し、クオリティの高い文化祭を目指す。	B			三年ぶりに芸術鑑賞会を行った。演劇の良さや醍醐味を経験した。また市商祭は例年の規模に近づけるように計画する。文化委員の活動として、企画・運営・準備・片付け等を積極的に行うように計画する。
	広報活動を積極的に行い、内容を充実させる。	ホームページ・学校新聞・学校パンフレット等の内容を精査・再検討を行い、更に広報活動としての機能の充実を図る。また、他校の広報活動を研究し、今後の活動に生かす努力をする。創立70周年に向けた取り組みを行う。	B	B		広報活動としての、学校新聞や学校パンフレット等の構成に創意・工夫を行い、わかり易い内容を精査・再検討、充実した活動を立案・計画する。
保健体育	体力の向上を目指した授業に取り組む	スポーツテストでA判定を160名以上目指す。	C	B	B	スポーツテストA判定121名と感染症拡大の影響で1年生男子が例年に比べ少なくなった。次年度以降の入学生も体力の低下が考えられるため生徒の実態に合わせた取り組みを実施したい。
		スポーツを通じて心身共に鍛え、怪我の防止に努める。	B			
		安全にスポーツが行えるように環境整備に取り組む。	B			
	健康教育の推進	健康意識を高め、感染症の予防に努める。	B	B		二年続けて外部講師を活用したがん教育を実施することができた。次年度も実施できるように検討していきたい。感染症については
外部講師を活用したがん教育の実施	A					

		学校保健委員会に向け、資料や情報を整理し、健康への意識を高める。	B	B		行事及び実施できるものに検討していった。本年度は、LHRの開催和傾向にある中、行事について検討していきたい。	
	部活動を通じてバランスのとれた生徒の育成	全国大会や近畿大会の出場選手を延べ250人以上目指す。	C	B		全国大会・近畿大会出場選手延べ187名となり、各部が高い目標をもって取り組める環境づくりが必要である。	
		学校生活と競技力の向上にバランスよく取り組ませる。	B				
人権教育	一人ひとりのつながりを大事にして、命を大切にする。	プリント資料・DVD等を提供して、最近の諸問題に対応した話し合いのHRの充実を図る	B	B	B	LGBTについてはDVD視聴により生徒ひとりひとりが考えることができた。次年度も継続していきたい。 いじめに関しては低学年になるほど認識が甘い。LHRなどの時間を活用し、周知していく必要がある。 SCは必要な生徒に適宜、実施することができた。	
		各種アンケート（いじめ・情報機器）を通して実態把握と共に、早期発見・対応に努める。	B				
		いじめ件数の0を目指す。	C				
		教育相談活動の充実を図ると共に、スクールカウンセラーや養護教諭と連携を密にして生徒の実態把握に努める。	A				
	一人ひとりの違いを個性や豊かさにとらえ、違いを認め合えるなかま作りを行う。	各種交流会やボランティア活動への自主的・自発的な参加を促し、HR等で発信する。	B	B		ボランティアへの参加は、生徒会からの声掛けにより実施することができた。 職員研修は教育相談の内容で実施することができた。	
		「なかまだより」の内容を、保護者がより関心を持ち読んでいただけるようにする。	C				
		職員研修の年1回実施や各種研修会への積極的な参加を要請し、実践力の向上に努めていただく。	A				
商業科	上級資格検定の取得を目指す。	2年時に全商1級3種目以上取得者180名、3年時は190名以上と取得率の日本一を目指すため、検定取得に向けた補習を計画的に取り組む。	B	B	B	目標人数を意識しながら、達成に導いていけるようにする。 学習指導要領改定にともなう検定試験の出題範囲変更に対応する。	
		日商簿記やITパスポートの受検を促し、合格者を増やす。	B				
	生徒研究発表近畿地区大会を成功させる。	大会が安全に実施できるように綿密に計画を立て、外部の関係機関および教員間の連携を図る。	A	A		校内で会議を重ね、県内の先生方とも連携を取り、成功に導いた。	
	ビジネスプランに基づいて知識と技術を習得させる。	企業や地域等と連携し、取り組みを行う。 各種コンテスト等への参加を促す。	C	B		外部と連携して取り組みができるように、情報を収集し、積極的な参加を促すように努める。	
	地域連携システムの強化に努める	産業教育フェア等を利用し、地域の方との体験をさせる等イベントに積極的参加を呼びかける。	B			産業教育フェアに生徒が参加できるようになり、今後も地域の方とのイベントに参加するように促す。	